

わが愛する者は美しい

【聖書箇所】 雅歌 1 章 9～11 節、15 節



【新改訳 2017】 雅歌 1 章

9 わが愛する者よ。

私はあなたをファラオの戦車の間にいる雌馬になぞらえよう。

10 飾り輪のあるあなたの頬は美しい。

宝石の首飾りがかけられたあなたの首も。

11 私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。そこに銀をちりばめて。

15 ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。

ああ、あなたは美しい。あなたの目は鳩。

ベレーシート

●「雅歌」を「花婿なるキリスト」と「キリストの花嫁である教会」との愛のかかわりを最高の表現で歌った歌として理解し、解釈しています。しかもその内容は預言的です。今回の 1 章 9～11, 15 節には花嫁に対する初めての花婿のことばが記されています。花婿が花嫁に呼びかけるときには決まって「わが愛する者」(「ラヤーティー」רִיָּשׁוּרִים) と表現し、逆に花嫁が花婿に呼びかけるときには決まって「私の愛する方」(「ドーディー」דודי) と表現されます。そのことで、呼びかけている主体がだれなのかを理解できます。以下は、花婿と花嫁の愛の対話が記されています。

〔花婿〕

9 わが愛する者よ。

私はあなたをファラオの戦車の間にいる雌馬になぞらえよう。

10 飾り輪のあるあなたの頬は美しい。

宝石の首飾りがかけられたあなたの首も。

11 私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。

そこに銀をちりばめて。

15 ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。

ああ、あなたは美しい。あなたの目は鳩。

〔花嫁〕

12 王が長椅子に座っておられる間、

私のナルドは香りを放っていました。

13 私の愛する方は、私にとって、私の乳房の間に宿る没薬の袋。

14 私の愛する方は、私にとって、エン・ゲディのぶどう畑に

あるヘンナ樹の花房。

16 私の愛する方。ああ、あなたはなんと美しく、慕わしい方。

私たちの寝床も青々としています。

17 私たちの家の梁は杉の木、私たちの垂木は糸杉。

●今回取り上げる箇所は、「花婿のことば」です。そこに花嫁の「頬」「首」「目」といった「顔」(「パーニーム」רִיָּשׁוּרִים)に関する語彙が目立ちます。「天」を意味する「シャーマイム」(רִיָּשׁוּרִים)と同様、「顔」も複

数形で表します。おそらく「顔」はその人自身の様々な面を含んでいるからかもしれません。「パーニーム・エル・パーニーム」(פָּנִים וְפָּנִים)と言え、**「顔と顔を合わせる」**という意味になり、「神と人とが向かい合う、愛の交わりの究極的な表現」となりますが、その中の「頬」「首」「目」も花嫁自身を表しています。そしてそこに修飾される語彙によってその人の様々な特質を表していると言えます。今回は9～11節、および15節の花嫁の美しさをたたえる花婿のこぼれに注目したいと思います。しかしその内容はすべて秘められた「たとえ」によって表現されています。

1. ファラオの戦車を引く雌馬にたとえられた花嫁

9節 わが愛する者よ。私はあなたをファラオの戦車の間にいる雌馬になぞらえよう。

●【新改訳2017】では「ファラオの間に戦車の間にいるの雌馬」と改訳がなされました。原文では「ファラオの戦車(複数)の雌馬にわたしはあなたをたとえよう。わが愛する者よ。」となっています。古代の中近東ではエジプトの馬が最高でした。花婿と花嫁の関係をファラオの戦車を引く馬のように、生死を共にする関係になぞらえているのです。戦車を引くのは雄馬のようです。それを裏づけるかのように、聖書の「馬」(「スース」סוּס)は男性形として140回も使われています。しかし「雌馬」(「スーサー」סוּסָה)はこの箇所には出てきません。なぜなら、ファラオの戦車を引く雌馬を花嫁にたとえているからです。

●馬はとても勇敢です。馬は一国の王が戦いにおいて生死を共にする伴侶だと言われます。敵陣に乗り込んで敵を蹴散らし、喜んで主君のために殉じる姿をなぞらえています。戦いの勝敗が馬によって決まると言っても過言ではありません。ですから馬を愛することは極めて自然であり、愛着を持っていたようです。花婿はそうした花嫁の存在を「雌馬」になぞらえているのです。

●使徒パウロは、主のためにいのちをささげる「雌馬のような人」です。以下がそのことを表しています。

【新改訳2017】ペリピ人への手紙1章20～21節

20 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように**大胆に**語り、

生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。

21 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。

●20節の「**大胆に**」と訳された「パッレーシア」(παρρησία)は初代教会の基調でした。使徒の働きでこの語彙が使われる時は、決まって神の大いなるわざが前進しています(使徒2:29, 4:13, 29, 31を「祈り読み」してください)。それは上から注がれる力としての聖霊、つまり「聖霊に満たされた」(「ピンプレーミ」πίμπλημι された)姿なのです。パウロは自分の身をもってキリストの偉大さが大胆に証しされること、それが「キリストがあがめられること」だと言っています。パウロにとって「生きることはキリスト」とあるのは、キリストこそ「生きること=いのちの源泉」(「ト・ゼーン」τὸ ζῆν)だからです。まさにキリストとパウロの関係こそ、ファラオと「ファラオの戦車を引く雌馬」の関係と言えます。

2. 「飾り輪」と「宝石の首飾り」の真意

●10 節の「飾り輪のあるあなたの頬は美しい。宝石の首飾りがかけられたあなたの首も」という花婿のこ
とばを理解したいと思います。「・・あなたの頬(=両頬)」も「・・あなたの首」も「美しい」とあります。
しかし花嫁の美しさが外面的なところでとどまっているなら、雅歌の解釈としてはふさわしくありません。
なぜなら雅歌は最高傑作の歌であり、単なる男女の愛の歌ではないからです。その深みを読み解く必要が
あります。

●「飾り輪」と「宝石の首飾り」に共通しているのは、束ねる輪であり、宝石に穴を開けてそこを通して首
飾りとする糸の存在です。花嫁の頬にある「飾り輪」も、首にかけられた宝石の「首飾り」も「神のこと
ば」をたとえています。ここでは、あるみことばが他のみことばと関連づけられ、結び合わされ、束ねられ
ることで、神のことばの紡ぎの「美しさ」が見えてきます。そのような「飾り輪」をつけた花嫁の頬や、宝
石の「首飾り」をつけた花嫁の首を「美しい」(麗しい)と花婿は喜んでいるのです。

●花婿の語りかける一つ一つの宝石のようなことばを、花嫁がある関連性をもってつなぐられ、束ねられる
ものを「飾り輪」にたとえています。「飾り輪」と訳された「トール」(תּוֹר)の複数形「トールーム」(תּוֹרִים)、
また真珠やビーズ、宝石に穴を開けて糸を通して作られた「首飾り」と訳された「ハルーズィーム」
(חֲרָזִים)とは何でしょうか。

●聖霊によってイスラエルの慰められることを待ち望んでいたシメオンが、幼子イエシュアを抱いて彼が
その幼子に見たものは何だったのでしょうか(ルカ 2:29~32)。それは「神の救いの全貌」です。その内訳は
「万民の前に備えられた救い」、すなわち「異邦人を照らす啓示の光」と「御民イスラエルの栄光」でした。
シメオンが見たものはやがてエックレーシアが見るべき神のヴィジョンです。これが花嫁の頬の飾り輪、
宝石の首飾りといった装飾品にたとえられているのです。

●ちなみに、「飾り輪」を意味する単数の「トール」(תּוֹר)の語源となる「トゥール」(תּוֹר)は、「探る、捜
す、調べる、探し出す、見極める、偵察する」という意味を持っています。その語彙の初出箇所である民数
記 10 章 3 節はきわめて預言的です。

【新改訳 2017】民数記 10 章 33 節

こうして、彼らは【主】の山を旅立ち、三日の道のりを進んだ。【主】の契約の箱は三日の道のりの間、彼
らの先に立って進み、彼らが休息する場所を探した。

●ここでの「契約の箱」とはイエシュアご自身の型です。シナイ山を旅立ち、三日の道のりを旅して、イス
ラエルの民に休息する場所(=いこい、安息)を「探した」(「トゥール」תּוֹר)のは、主ご自身でした。「休
息する場所」のことを「メヌーハー」(מְנוּחָה)と言います。こうした安息を得るためには、私たちの霊と
たましいが区別される必要があります(ヘブル 4:12)。つまり、霊の中で神のことばを聞いて、それを信仰

によって結びつける必要があります。そうするなら、主は台風の目の中にいるような「安息」を私たちに経験させてくださるのです。ところが、神のことばをたましいによって聞くなら、どういふ結果がもたらされるでしょうか。そのみじめな実例が民数記 13～14 章に記されています。13 章には「トゥール」(תור) が 7 回(2, 16, 17, 21, 25, 32, 32)、14 章には 5 回(6, 7, 34, 36, 38)使われています。そこではすべて「**偵察する**」と訳されています。イスラエルの各部族から 12 人の斥候が選ばれて、カナンを 40 日間偵察した結果、ヨシュアとカレブを除く 10 人は、「その地には行けない」と結論づけました。斥候たちは神が約束された地としてすばらしいことを知ったのですが、そこに住む民は力が強く、その町々は城壁があって非常に大きく、そのうえそこにアナクの子孫(=背が高い種族)が住んでいるのを知った(見た)ことで心がすっかり萎えてしまったのです。それが「その地に行けない」理由でした。

【新改訳 2017】エゼキエル書 20 章 6 節

その日、わたしは彼らをエジプトの地から導き出して、**わたしが彼らのために探しておいた乳と蜜の流れる地、どの地よりも麗しい地に入れることを彼らに誓った。**

●この神の約束はモーセを召し出したときにすでに語られていました(出 3:8)。にもかかわらず、神のことばをたましいで聞いた者たちは「麗しい地」に入ることができませんでした。なぜなら、神のことばをたましいで聞いたからです。霊の中で信仰によって聞いた者だけが「わたしが彼らのために探しておいた(תור)乳と蜜の流れる地、どの地よりも麗しい地」に入ることが出来たのです。事実、出エジプトした第一世代は(ヨシュアとカレブを除いて)、40 年間の荒野の放浪によってすべて死にました。神の約束(ことば)を「霊」で聞くのと、「たましい」で聞くのとでは真逆の結果となってしまうのです。神のみことばの解釈でも同じことが起こります。「サマリア人のたとえ」はまさにそうです。

●「霊とたましい」を見分けること、区別することを使徒パウロは記しています。

【新改訳 2017】ヘブル人への手紙 4 章 12 節

**神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、
たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。**

●花婿が語ることばを「霊の中で聞く」こと、花嫁にとってそのことが何よりも重要です。霊は神のことばを紡ぎ、そこにあるものを一つにまとめる機能を持っています。イエシュアはご自分の口から語られる一つひとつのことば(レマ)は「霊であり、いのち」です(ヨハネ 6:63)と言われました。またイエシュアの語られた「御国の福音」は、聖書が示している神のご計画のすべてを含んでいます。その俯瞰的な視点を持つことこそ、花嫁の頬の飾り輪(「トーリーム」**דור**)であり、かつ首にかけられた**宝石の首飾り**(「ハルズィーム」**דור**)。「ハルズィーム」という語彙は雅歌 1 章 10 節のみで使われている特別な語彙ですが、聖書では普通「首にかけられる飾り」は複数形で表される「アナーキーム」(**דור**)です。

【新改訳 2017】箴言 1 章 8～9 節

8 わが子よ、父の訓戒に聞き従え。母の教えを捨ててはならない。

9 それらは、あなたの頭に戴く美しい花の冠、首にかける飾りだから。

●8節と9節は、同義的パラレリズムによって、父の訓戒と母の教えとに「聞き従う」ことが、首にかける飾りとされています。9節の「首にかける飾り」の「飾り」が複数形であらわされる「アナーキーム」(אֲנָקִים)です。しかも、興味深いことに「飾り」を意味する「アナーキーム」(אֲנָקִים)が「アナク人」をも意味しているのです。イスラエルの12人の斥候たちが遣わされた地で見えたものは「アナク人」でした。「首飾り」と「アナク人」が同じ語彙で表されるとはどういうことでしょうか。子が父の訓戒と母の教えに聞き従うことと、「アナク人」を恐れずに従順に神に従うことが「首にかける飾り」にたとえられているのです。これが花婿に「美しい」と言わせている花嫁の霊性ではないでしょうか。

●神殿ユダヤ教、律法主義者たちから、「イエシュアの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならない」と脅されたペテロとヨハネの反応はどうだったでしょうか。

【新改訳 2017】使徒の働き 4章 19～20節、23～24節、29～30節

19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。

「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。

20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」

23 さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。

24 これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。

29 「主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。

30 また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもべイエスの名によって、癒やしとするしと不思議を行わせてください。」

●「アナク人」にたとえられるような神殿ユダヤ教、律法主義の指導者たちに対して、初代教会の花嫁は彼らの言う言葉に聞き従わずに、むしろ「あなたのみことばを大胆に語らせてください」、「癒やしとするしと不思議を行わせてください」と声を上げて祈ったのです。これはイエシュアと同様、御国の福音を大胆に語るだけでなく、御国のデモンストレーションのわざを行わせてくださいという祈りでもあったのです。雅歌において花婿が歌っている花嫁の「**飾り輪**」と「**首飾り**」の「**美しさ**」には、このような意味が込められているのです。

【新改訳 2017】I ペテロの手紙 3章 3～4節

3 あなたがたの飾りは、髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする外面的なものであってはいけません。

4 むしろ、**柔和で穏やかな霊**という朽ちることのないものを持つ、**心の中の隠れた人を飾りとしなさい**。それこそ、神の御前で価値あるものです。

●上記の箇所は、表面上は「妻」に対する教えとして書かれています。しかしこれをキリストの花嫁とし

ての教会に対する教えとして理解することは可能です。「花嫁」の中には女性も男性も区別がないからです。事実、メシア王国では教会は男も女も区別がなくなります。「**柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとする**」こと。これはキリストの花嫁が持つべき飾りではないでしょうか。

3. 「私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。そこに銀をちりばめて」

11 節 私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。そこに銀をちりばめて。

●この 11 節には「**私たち**」とあります。これをどのように解釈すべきでしょうか。「私たち」ということばの中には、花婿なるキリストのみならず、三一の神が相互内在していることを想起させます。「**金と銀**」は「**神性と贖い**」を象徴しています。花嫁は花婿イエシュアの一連の贖いによって存在させられています。その贖われた花嫁がますます成熟して御霊に属する者となり、堅い食物を食べることができるようになることで「**造り変え**」がなされるのです。そしてイエシュアが語った「**御国の福音の奥義**」を悟る者となるだけでなく、実際にそれに与る者となるのです。その約束が「**金の飾り輪をあなたのために作ろう**」ということばに込められていると信じます。

【新改訳 2017】雅歌 6 章 4 節

わが愛する者よ。あなたはティルツアのように美しい。あなたはエルサレムのように愛らしい。だが、旗を掲げた軍勢のように恐れられる。

●上記は、花嫁のひたむきな愛を「ティルツアのように美しい。あなたはエルサレムのように愛らしい。」と表現しています。「ティルツア」とは北イスラエル王国の主都(I 列王 14:17)、また「エルサレム」はユダ王国の主都です。花嫁はそれらの都のように美しく(תִּירְצָא)、愛らしい(麗しいתִּירְצָא)だけでなく、「**旗を掲げた軍勢のように恐れられる**」と花婿は表現しています。軍勢が戦う時に必要なのは兵器ですが、それ以上に重要なのは「**旗**」なのです。戦いに負けるなら、旗は屈辱のうちに取り去られますが、旗が翻る時には勝利の栄光を表わします。サタンの支配するこの世に対して、花嫁こそ最強の力ある存在となることを預言的にたたえているのです。

●それは花嫁が神の「**聖**」と関連しているからです。もし、花嫁がこの世に迎合し、世に媚びるとするなら、神の聖を失い、「**恐れられる**」存在とはなりません。このように花嫁の霊性は、「**美しさ**」と「**恐ろしさ**」を合わせ持つ存在でなければならないのです。今日、そうした花嫁としての教会が建て上げられる必要があります。キリストの花嫁である教会は、今日、自分に約束された将来を知らずに元の生活に戻ってしまったみじめなシンデレラのようなのです。シンデレラがお城の舞踏会で王子に見初められ、王子の側ですでに結婚を決意しているように、教会もすでにキリストの花嫁として選ばれ、やがては花婿であるキリストとの親密な愛の交わりが確約されていることを決して忘れてはならないのです。そのような花嫁のために、花婿なるイエシュアは、今天において、神の右の座に着いて「**圧倒的な勝利者**」となるべくとりなし

てくださっているのです。これが、今回のテキストにある 11 節の「**私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。そこに銀をちりばめて**」ということばの意味ではないでしょうか。

4. 「あなたの目は鳩」

【新改訳 2017】雅歌 1 章 15 節

ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。ああ、あなたは美しい。あなたの目は鳩。

●最後に、15 節の花婿のことばである「ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。ああ、あなたは美しい。あなたの目は鳩」に注目したいと思います。花婿が花嫁の美しさを「**あなたの目は鳩**」と表現しています。「鳩」はどういう意味でしょうか。雅歌には「鳩」(「ヨナー」^{יָנִיב})についての言及が 7 回あります(1:15/2:12, 14/4:1/5:2,12/6:9)。ノアの洪水の後でオリーブの若葉を口にくわえてきた箇所が「鳩」の初出箇所です(創 8:11)。「あなたの目は鳩」という比喩は、単に目の形が鳩に似ているとか、純粋な目という意味ではなく、その目が神のご計画の成就に一途に向けられていることのたとえです。つまり、鳩の目が一度に一つのものしか見えないように、「花嫁」の霊的な着眼点は一途なのです。しかもそうした花嫁の目は輝いており、花婿に神にとって愛らしいものなのです。花嫁の着眼点はイエシュアが語った「御国の福音」に向けられているのです。ですから、花嫁は恐れずにそのことに着目して語り続けるべき存在でなければなりません。

【新改訳 2017】使徒の働き 20 章 24～27 節

24 けれども、私が自分の走るべき道のりを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証する任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。

25 今、私には分かっています。御国を宣べ伝えてあなたがたの間を巡回した私の顔を、あなたがたはだれも二度と見ることはないでしょう。

26 ですから、今日この日、あなたがたに宣言します。私は、だれの血に対しても責任がありません。

27 私は神のご計画のすべてを、余すところなくあなたがたに知らせたからです。

●ここは、使徒パウロがエペソの教会の長老たちを招いて語った訣別説教が記されている箇所の一部です。ここにパウロが宣べ伝えた二つの福音があります。一つは「**神の恵みの福音**」です。それは体験に基づく話で、聞く者は聖書の知識がなくても聞ける証しです。しかしもう一つは「**御国の福音**」で、自分の経験を超えた神のご計画を内容とするもので、証しするものではありません。聖書に基づいて論証する内容です。聖書に興味がないとチンプンカンプンな話です。この「御国の福音」について、パウロは「神のご計画のすべてを、余すところなく知らせた」と言っています。この「**余すところなく**」とは全部という意味ではなく、「**避けることなく、^{ひる}怯むことなく**」という意味です。人々が混乱するといけないから、神のご計画などは話さないでおこう、ということは決してないという意味です。パウロは御国の福音を「**避けることなく、^{ひる}怯むことなく**」大胆に語り続けたのです。これが「鳩」にたとえられています。

●雅歌の4章9節に「あなたは私の心を奪った。私の妹、花嫁よ。あなたは私の心を奪った。ただ一度のまなざしと、首飾りのただ一つの宝石で」とあります。ここに「まなざし」と訳されているのが「目」(双数形)です。花嫁の「まなざし」が花婿の心を奪ってしまったのです。イエシュアも「からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、目が悪ければ全身が暗くなります。」と言われました。「目」はその人の状態を写し出す部位です。花婿の心を奪ったまなざしとは何なのでしょう。神は若き預言者エレミヤに尋ねました。

【新改訳 2017】エレミヤ書 1 章 11～12 節

11 【主】のことばが私にあった。「エレミヤ、あなたは何を見ているのか。」

私は言った。「アーモンドの枝を見えています。」

12 すると【主】は私に言われた。

「あなたの見たとおりだ。わたしは、わたしのことばを実現しようと見張っている。」

●ここにある「アーモンド」と「見張る」ということばの関係は何でしょうか。「アーモンド」と訳されたヘブル語は「シャーケード」(תְּרִשָּׁה)、**「見張る」**と訳されたヘブル語は「シャーカド」(תְּרִשָּׁה)。実は、いずれも語根が同じなのです。「シャーケード」(תְּרִשָּׁה)を関根訳は「目覚めの木」と訳しています。「アーモンドの枝を見えています」というエレミヤに、主は「あなたの見たとおりだ」(新改訳第二版では「よく見たものだ」)と言っています。つまりエレミヤが主と同じところを見ていることを主は喜んでいるのです。

●「アーモンド」(別名、あめんどう、巴旦杏)は1～2月頃に他の木に先立って冬の眠りから醒めて芽を出し、花を咲かせます。これはまさに「よみがえりのいのちの初穂」を象徴しているのです。重要なことは、エレミヤも主もイスラエルの民の回復(よみがえり)の実現のために注意を払い、関心を持ち、目を覚まして見張っているということです。このようなまなざし(目)を花嫁がもっているがゆえに、花婿は「美しい」「美しい」と繰り返して強調しています。その美しさは、花嫁が花婿と同じ関心を共有しているからなのです。

ベアハリート

●今回は花婿が語った花嫁が「美しい」といういくつかの面についてお話ししました。雅歌は預言的な歌です。いろいろなたとえで表現される中に花婿と花嫁のかかわりの美しさが隠されています。ブライダル・パラダイムで聖書を読むことは、教会(エックレーシア)が最強の力の存在となるために不可欠なことです。今月12月18～25日までの八日間もたれる「セレブレイト・ハヌッカー」の準備のために今回のメッセージを語っていますが、決して雅歌の全体をカバーできないことを示されています。しかしそうであっても、花婿イエシュアにふさわしい花嫁として霊の目が開かれていくことができるよう、「シエーム・イエシュア」(יְשׁוּעַ יֵשׁוּעַ=イエシュアの名)を呼び求めたいと思います。

三一の神の霊は、私たちの霊とともにあります。

2022.12.11